

2015-12-01 チャンピオン会

日時：2015年12月1日（火）12：00～14：00

出席者：中川勲、桜本和夫、鳥居弘忠、鳥居瑤子、天野博文、天野京子、田中英和、尾上武襄、楠潤一郎、大竹達郎

オブザーバー：河内芳郎、西田克義

会場：オフィス東京

議事録作成：横道明宏

【会議内容】

2015年11月22日（日）開催の、東京ダンスグランプリについてのJBDF 東部とNDCJ の対応について話し合われた。JBDF 東部は、国際競技会である東京ダンスグランプリの公認申請をせず、結果的に海外審査員が直前に審査をキャンセルする事態を招いてしまった。NDCJ としては、このような事態を招くことを回避するために最大限の努力を払ったが、JBDF 東部の石原会長は一切それに協力せず、このような結果に終わってしまったことが改めて確認された。

【発言内容】

1. （中川勲）：本日の議題は、先週、JBDF 東部総局が東京ダンスグランプリを開催した。その競技会に4人の海外審査員を招聘していた。大会開催の事実を知ったのは、10日ぐらい前であった。その時点でNDCJ の公認を取っていない状況の中で、どうして開催できるのか理解できなかった。海外審査員は東部総局の渉外部より連絡があり、公認されている競技会であると聞いていた。しかしNDCJ にて公認した事実は全く無い。JNCPD が解散して後は、JBDF 東部総局は外の組織であり、申請できる立場でもない。WDC 審査員に不利益が被らないように海外審査員には知らせた。しかし来日を止めることは一切していない。海外審査員は自らの意志で競技会審査をキャンセルした。更に驚くことには、JBDF 東部総局は4人がキャンセルした後アンドリュー・シンキンソンに連絡を取り、来日審査を促した。アンドリューは、WDC のハーネスを確認を取り、未公認競技会だったことを知り、審査を受諾しなかった。これ以上、状況を悪くしたくないので、東部総局に何回か話し合いを持つように促したが、話し合いには現れなかった。「一ヶ月以内に総会を開き、総会決議をする」ことを条件としたが、東部総局では総会も開かず態度を保留したままである。特別扱いにて公認可能とするために、石原久嗣先生に、「東部総局が来年、NDCJ に登録することを約束すれば公認を取れるようWDC を説得する」といった。そしてNDCJ から3人、東部総局より3人による会議の約束をしたがなんの連絡もなく会議をすっぽかした。その後、競技会前日の土曜日に石原久嗣先生から中川先生に話をしたいとの電話があった。東部総局がNDCJ に登録するとの条件は飲めないとのことであった。そして土曜日夜の11：00頃に、稲川さんから中川先生に電話があった。石原先生は稲川さんには条件の件については何も話さないで、ただ「頼んでくれ」、だけであった。すでに夜の24：00になっていた。NDCJ としては最大限の努力をしたが東部総局は一切何もしなかった。この件について皆様の意見をお願いします。
2. （桜本和夫）：東部総局は、暗にJBDC が公認申請をしていると思っていた。絶対にJBDF を退会することを条件に公認を取るようすすめた。JBDC 会長として謝罪したい。
3. （中川勲）JBDC の責任とは思っていない。会費も払っていない東部総局の団体がNDCJ に公認申請はできない。東部がやめて西部といっしょになってやっていけばよいのだが、そうっていない。
4. （桜本和夫）NDCJ のものに、5つ、6つの団体が集まるのか、JBDC にて財団の東部、西部

が集まるのかも確認したい。

5. (中川勲) 3団体はそれぞれ1つの窓口になっている。もし、東部総局が入会したいなら、JBDCでの権利を1/3ずつにしても、NDCJに加盟してくることが非常に大切である。
6. (桜本和夫) 現在、JBDCは登録業務しかやっていない。
7. (中川勲) 会員でない東部総局にはなんの権利もない。
8. (中川勲) 審査員はFreedom to Judgeではないから、選手とは別問題。WDSF関係の競技会の審査は出来ない。選手はJBDCが窓口となっている。そのことを東部総局は理解していなかったと思う。
9. (桜本和夫) いや、東部総局はわかっていたと思う。いまJBDCは設立してから一年しかたっていないので、来年からしっかりやっていきたい。
10. (中川勲) 今回のことがきっかけとなり良い方向に動いていくなれば良いと思う。
11. (鳥居弘忠) 西部総局はNDCJ立ち上げの時からNDCJ入会意思表示を示して入会した。
12. (河内芳郎) 東部総局は、JBDF東部がNDCJに入会しなくても、JBDCを通して国際大会を開催出来ると思っていた。東部総局は、西部総局にもJBDCを窓口として使って欲しい旨の打診をした。このことは事実です。西部総局はNDCJの会員ではないので、今のままでは国際大会は出来ない。しかし、JBDCを通して国際大会開催の申請ができると思っている。JBDCを通して国際大会の申請が出来ると思っていることが問題である。
13. (中川勲) 東部総局は知らなかったのか、知っていて進めているのかはわからないが、今日の議題の大切な問題である。
14. (楠潤一郎) 今回の東京ダンスグランプリの件も、JBDF、JDC、JCFの選手が一緒になってやっているが、実は東部総局はWDSFと繋がっている状況ではWDC公認競技会は開けないのだが、そのことがよく理解されていない。東部連盟はJBDCを認めて、そこに入会することが、いろいろな誤解を生まなくて良いと思う。東部総局はNDCJを利用しているだけに見える。
15. (尾上武襄) 東部総局の人間はNDCJに入会する意志がないように思える。金光先生がフェイスブックで批判していたが(現在は削除されている)、世間一般からよく思われていない。東部総局の考え、石原先生の意志と、桜本先生の意志が違っていると思う。
16. (鳥居弘忠) 昨年、NDCJに参加した折に、財団本部より、財団かNDCJかどちらかを選ぶように圧力がかった。とりあえず、NDCJに西部総局は入会せずに、個人的にNDCJに入会した。大阪インター開催については全員賛成している。現在、西部総局ではNDCJに入会することは保留となっている。
17. (鳥居瑤子) 西部総局はNDCJに入会しないとインターナショナル競技会は出来ないとの認識があったが、西部総局の理事の一人が「JBDCを通せば、西部総局がNDCJに入会しなくても国際競技会を開催できる」との発言があり、その意見を受け入れてしまった。
18. (天野博文) 自分の認識は、JBDCはまだ一年ではなく、もう一年と思っている。今年度中に話がまとまらないのであれば、NDCJの中に、JBDC、東部、西部が入って、同じテーブルについて話し合いをしないと先に進まないと思う。本来1団体5人だが、東部、西部、JBDCは2人ずつでも良いからNDCJ管理委員会に入ってほしい。
19. (田中英和) 現在いろいろな人間の認識が違っている。
20. (大竹達郎) 東京ダンスグランプリの公認の件は、我々東部総局の責任だと思っている。先週の理事会で、本部を離脱して財団を離れるとの決議をしたが、その後何も起こっていない。理事会にて本部から離脱すべきだとの決議が再びなされた。今年中か来年中に財団を離脱すると思う。

21. (中川勲) 何故東部総局が理事会決定にて財団本部の離脱を決めなら行動を起こさないのかを、東京グランプリの前日の土曜日に石原先生に聞いた。まず、70%の人間はソシアルの部分の人間であり、総会を開催すれば否決されてしまうとのことであった。また別ルートの情報では、石原先生は67歳であと1年あり、次回は立候補できないので、本部の専務理事になるために総会を開催しないとの情報がある。この2つの理由によって東部総局は総会を開催できない。2回決議したけれど、前に進まないと思う。
22. (大竹達郎) 全員が一緒に行かないと動かないと石原先生が言っていた。東北支局からも離脱の要請があったので、今回は本当だと思う。
23. (中川勲) もう1年以上待っている。早く決断して、早く行動すべきだと思うが、東部総局内部の問題なので、そのことはここではなんとも言えない。東京グランプリの件は10日前にやっとわかった状況だったので、時間が足りなかった。
24. (中川勲) 海外審査員には状況を知らせてだけで、判断は本人に任せた。誰かを止めることは出来ないし、すべきではない。
25. (中川勲) スペイン・ロトボルトがシンガポールで脳梗塞を起こした。現在非常に危機的な状況となっている。中国でWDCの教師試験を担当していた。非常に残念です。以前はノルウェーの造船会社に努めていた。
26. 以上です。